

ダゾメット粉粒剤によるショウガ根茎腐敗病の防除

農業研究センター 農産園芸研究所 病虫部

担当者：古賀 成司

研究のねらい

ショウガ根茎腐敗病は、ショウガ栽培にとって生産安定を脅かす重要な病害である。現在は、植え付け前の臭化メチルくん蒸剤処理によりほとんど発生が抑えられている。しかし、この臭化メチルは、2005年には全廃されることが決定されており、臭化メチルにかわる防除薬剤及び防除法の確立が強く要望されている。

そこで、新しく登録になったダゾメット粉粒剤（パスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤）の防除効果及び薬害の検討を行い、臭化メチルの代替剤としての防除技術を確立する。

研究の成果

- 1 無処理区での根茎腐敗病の発生は、植え付け後110日の立毛中の調査で、発病率が21.7%を示し、また、多数の欠株により茎数の減少を生じるなど、多発生である。
- 2 ダゾメット粉粒剤30kg/10aの植え付け20日前（処理期間16日）の土壌混和処理は、立毛中の調査では、対照の臭化メチルくん蒸剤と同様に無発病である。収穫時の調査では、本剤処理区は発病率1.7%、発病根茎率5%となり、臭化メチルと比較した場合、やや発生が認められるが、防除効果としては十分である。
- 3 本剤処理による生育及び収量に対する影響は認められない。

普及上の留意点

- 1 根茎腐敗病はピシウム属菌の感染によって起こる土壌病害で、高温多湿条件で発生しやすい。一度発生すると病原菌は雨及び灌水用の水の移動に伴い圃場内及び隣接圃場に蔓延し、急激に発病が拡大する。激発圃場では、薬剤の防除効果が不十分になりやすいので、耕種的防除（輪作、排水対策）や他の薬剤との体系防除など総合的な対策が必要である。
- 2 本剤は、粒剤タイプの土壌くん蒸剤であるため、土壌中に均一に混和することが防除効果の安定には不可欠である。
- 3 使用する場合は、安全使用基準に準じて行う。

表 1 根茎腐敗病に対する防除効果

供試薬剤	8月25日		10月9日		
	発病茎数 (本)	発病茎率 (%)	発病茎数 (本)	発病茎率 (%)	発病根茎率 (%)
タゾメット粉粒剤	0	0.0	7	1.7	5.0
臭化メチルくん蒸剤	0	0.0	0	0.0	0.0
無処理	34	21.7 ¹⁾	-	-	-

注) 1): 欠株多数、調査後隣接圃場への影響を考慮して全株抜き取った。

調査方法：1畦10mの2畦の全株について、発病茎数を調査した。発病根茎数は、20株当たり調査した。

表 2 タゾメット粉粒剤処理による生育、収量への影響

供試薬剤	6月17日		6月17日		10月9日	
	茎数 (本)	草丈 (cm)	茎数 (本)	草丈 (cm)	茎数 (本)	20株当たり根茎重 (kg)
タゾメット粉粒剤	19	38	256	79	408	13.2
臭化メチルくん蒸剤	26	39	242	78	411	13.7
無処理	19	37	157	76	-	-



写真 1 根茎腐敗病による立枯症状



写真 2 根茎腐敗病による根茎の褐変